

・・・令和5年度の発足にあたって・・・

やっとなのかもうなのか。

新型コロナウイルス感染防止に対する数々の規制がこの5月8日にすべて解除されますが、コロナウイルスを完全に抑制していないにも関わらずです。

感染症法上の取り扱いも2類相当からインフルエンザ並みの5類に変更されます。

年一回有料でワクチン接種を行う事で済みそうですし、どこの病院でも感染症拡大以前の通りに病気を診てもらえるようになります。

新型コロナウイルス感染者は2020年1月24日に日本全国で初めて神奈川県で発生して以来、2023年3月31日付けでは延べ感染者数は33,471,729名であり、死亡者数は73,949名となりました。

感染拡大に伴い数々の規制がかけられましたが、特にマスクの着用については2023年3月13日より国の方針として個人の判断となりました。

その他の規制も暫時解除され全てが自己責任による予防策になります。

ここでもし発熱をしたとして病院に行っても、恐らくウイルス感染を疑われれば、一般の患者とは隔離され通常通りには扱って頂けないでしょう、まだまだ感染が怖いからです。

とすると、結局政府の云う一般の病院では見て頂けないことになり、従来通り医療困難者が生じると思いますが如何でしょう。

こんな状況下で新年度が始まりました。

今後とも各自がコロナウイルスに負けない免疫力を着けて、住民協の活動を遂行して頂けるものと期待をしています。

宜しくお願い致します。

校区住民協 代表 山崎 徳次郎

令和5年4月度役員会

開催日時と場所：2023年4月1日(土)13時
議題

(1) 事務局からの報告事項

①2023年度総会準備作業スケジュール

総会開催に向けて、準備作業等の日程が確認された。

・総会は5月6日に久木会館にて対面で実施することが確認された。

・総会資料の最終確認は、4月15日に役員会を開催して、実施することが確認された。

・会計監査日程：久木会館の決算の取りまとめを

30分～15時55分、久木会館 参加者：19名
(内役員12名)

勘案して、4月10日午前10時から実施することが確認された。

・会員送付資料準備・発送の件

4月17日に総会資料の印刷完了、同日に会員への資料送付準備、各地区への配布・発送をすることで計画する。同時に市長・関係議員・各住民協会会長等の招待状作成・発送も行うものとする。

尚、本作業の作業要員については、後日事務局より、協力要請することになった。

(2) 審議事項

①2023年度総会資料の件

○第一号議案「2022年度活動報告」が紹介され、各部会長等からの提出情報の確認が実施された。

いくつか誤記の指摘があり、確認・修正された。

尚、子ども食堂・みんなの食堂については、休止

と報告しているが、会計決算書には費用が計上されており、矛盾しているとの指摘があり、朝市の一環として、みんなの食堂を開催した旨追記することになった。

また久木会館の活動報告に、昨年度との利用者数の比較資料を添えるよう事務局から要請された。

○第二号議案「2022 年度決算書」が説明された。但、みんなのカフェの事業収入がマイナス 1500 円になるとの報告を受けており、後日修正する旨説明された。

○第四号議案「2023 年度活動計画（案）」が紹介され、各部長等からの提出情報等の確認が実施された。いくつか誤記、不明瞭な記述の指摘があり、確認・修正された。

○第五号議案「2023 年度予算」が説明された。その中で、繰越金の総額が 150 万円を超えるとの報告があった。本件に関し、コミュニティビジネスの起業など有効活用を考える時期にきているとの意見が出され、今後議論していくことになった。

○第六議案「役員選任の件」について下記事項が確認された。

・副会長 : 山の根親交會會長交代により、加藤富

士男氏退任、瓶子純一氏に交代。尚、加藤富士男氏は理事として留任

・監査 : 磯部映美氏退任、細野裕氏に交代

・拠点部会長 : 井上亮子氏退任、小林寿志に交代

・子ども部会長 : 門脇茜氏退任、後任はペンディング。事務局より、適任者がいれば推薦するよう要請された。

・理事 : 芹沢ふさ江氏 追加任命

・新役員候補 : 記載が必要なのは、瓶子純一氏、細野裕氏、芹沢ふさ江氏の 3 名

・会計責任者一覧 : みんなの食堂の会計責任者は実情と合っていないので、一覧より削除

○2022 年度監査報告

配布資料④を基に、2022 年度の業務監査報告が説明された。

いくつか誤記の指摘があり、確認・修正された。

令和 5 年 4 月 臨時役員会

開催日時と場所 : 2023 年 4 月 15 日 (土) 13

時 30 分~14 時 50 分、久木会館 参加者 11 名 (内役員 8 名)

◆本役員会で次の事項が報告された。

①4 月 10 日監査が実施され、会計及び業務は厳正に実施されたことが認められたこと。

◆次の事項が提示され承認された。

①2022 年度決算の件。

②2023 年度収支予算の件。

③総会に提示する資料の提示があり、一部修正の

うえ承認された。

④議決権数は 82 であることが確認された。

◆その他

・地域担当職員の内、リーダーが広川忠幸氏から広末治氏に交代、サブリーダーが中川公嗣氏から坂本周史氏に交代する旨、報告があった。

《寄稿》 女王陛下の王冠 と ガーター勲章

校区住民協 理事 (書記) 森戸 久朝

(久木地区民生委員児童委員)

昨年 9 月にイギリスのエリザベス女王が静養先のスコットランドのバルモラル城で崩御された。

96 歳と 140 日、在位期間は 70 年と 214 日、イギリス史上最高齢、かつ最長在位の君主として君臨した方だった。葬儀の様子は、日本でもテレビで中継されていたが、ロンドンのウエストミンスターホールに安置された女王の棺に王旗がかけられ、その上に王冠・宝玉・王笏が置かれている映像を見た時、思わず 30 年以上前のロンドンにタイムスリップした。

それは、まだ 30 代の頃、出張でロンドンに滞在した時の出来事だった。

日曜日は仕事がないので、初めて来たロンドンの観光でもしようと、ガイドマップを片手に、メ

トロを乗り継いで観光に出かけた。まず驚いたのは地下鉄の深い事、エスカレーターがまるで地底まで続いているのではと思うほどだった。(今では東京の大江戸線などはかなり深い所を走っているが)そしてエスカレーターの踏み板が木製だったこと、更に片側を歩く人のために空けて乗ることだった(当時の日本ではこの習慣はなかった)。

バックingham 宮殿の衛兵交代を見て、ピクペン、ウエストミンスター寺院など見学して、タワーブリッジでも見ようとテムズ川沿いを歩いていると、川向うに要塞のような建物が見えてきた。ガイドブックで調べると、ロンドン塔とのこと、ロンドン塔は多くの王族や貴族が幽閉され、処刑された建物だという知識があり、なんとなく陰気なので観光の対象として考えていなかったが、時

間もあるし、来たついでにと思って入ってみた。中はいくつかの塔があり、White Tower には多くの甲冑や武器類が所狭しと展示されていて、歴代王の剣から大砲まであったように記憶している。また Bloody Tower には拷問に使われた器具や、処刑や暗殺の歴史にまつわるものがおどろおどろしく展示されていて、気分を悪くして塔から出てくると、The Crown Jewels と書かれた案内板が目に入った、示された矢印に従って歩いて行くと、ある建物に行きつき、中に入ってびっくりした。そこは王室所有の宝飾品の展示室だったのだ。ロンドン塔にこんな展示があるとは夢にも思わなかった。

壁面の提示ケースには煌びやか装身具・宝飾品、金銀で作られた食器、調度品がこれでもかと言わんばかり展示されていて、その一つ一つ細工の見事さ、宝石の輝きに魅了されて、食い入るように見たことを思い出す。壁面展示を見終わって、部屋の中央を見ると、円形になった展示ケースがあり、その周りに柵のついた見学通路が設けられていた。何だろうと思って見学通路の入り口から入っていくと、そこには女王の王冠、宝玉、王笏が展示されているではないか。

なんと王冠の見事なこと、アフリカの小さい星といわれる 300 カラットを超える大きなダイヤモンド、前面に施された黒太子のルビーと呼ばれるスピネル、王冠上部の十字架にはダイヤモンドに彩られた大きなサファイヤ、更に王笏には鶏の卵より大きなアフリカの星といわれる 500 カラットを超える大きなダイヤモンドが施されていて、それらのオーラに圧倒されて、思わず我を忘れて見入ってしまった。するとどこかで「Japanese」と叫ぶ声。まだ海外旅行は高値の花の時代に、観光でロンドンに来るリッチな日本人もいるもんだと思って振り返ると、見学通路入

り口に立っている警備員が私を指さしているではないか。そしてゆっくりと「Don't Stop」と言った。そう言えば、見学通路入り口に「立ち止まらずに、歩きながら鑑賞のこと」と書いてあったのを思い出して、小声で「Sorry」とつぶやくように言うと、足早にその場を後にした。あの時ほどきれいな発音の Queen's English を聞いたのは後にも先にもなかったような気がする。

もう一つ、ロンドン塔での忘れられない思い出がある。どこの塔かは忘れたが、イギリスの勲章のレプリカを展示している場所があった。意匠を凝らした勲章の中に「ひも」のようなものが並んで展示されていて、間違っただけで勲章を吊るすりボンが混じっているのかと思ったが、なにやら文字のようなものが金糸で刺繍されていて、説明版には「Order of the Garter」と記されていた。なにか心に残っていて、帰国してから文献でいろいろ調べてみた。ガーター勲章は英国最高位の勲章で、ガーター(靴下止め)という名のとおり、正章は左の脚に帯びることになっているとのことだった。イギリス古事民族誌によると、エドワード3世主催の宮廷舞踏会で、王と踊っていたさる伯爵夫人がうっかりして靴下止めを床に落とした。周りの人々が意味ありげなうす笑いを浮かべるのを見て、王は「悪意に解する者は恥じ入るべし」と叫んで、靴下止めをひざに巻き付けた。これが14世紀半ばに制定されたガーター勲章誕生のきっかけであり、勲章にはこの王の言葉が中世フランス語で刻まれていると記されていた。あの「ひも」はガーター(靴下止め)そのものだったこと、そして勲章には「弱者を思いやる心」が込められていることを知って胸が熱くなった事を覚えている。

あなた、その左脚には心のガーター勲章が巻き付いていますか・・・

《レポート》 カーボンニュートラル（続）

16. カーボンプライシング (CP)

地球温暖化の原因となる炭酸ガス（以下 GHG と略）に価格をつける仕組み。言い換えれば GHG の排出者に、GHG に価格をつけることにより排出削減を実施する動機を与えて、GHG の排出に伴って生じる環境コストへの負担を明らかにするのがカーボンプライシング (CP) です。具体的には、GHG を排出する企業などに金銭的負担を求めて、排出量を減少させようとする試みです。制度としては、排出する GHG の量に応じて税金を課す「炭素税」と、国が企業ごとに排出量の上限を決めて、排出量の上限を超えた企業は枠に余裕のある企業から排出量の枠を買い取るといっ

た企業間の取引を行う「排出量取引」があります。この二つの制度は排出される GHG に直接的（明示的）に金銭の値付けをする制度で、CP の中心となっています。

間接的（暗示的）な制度としては、補助金・税制優遇（特定の製品や施設に対して補助金や税制の優遇を与えて、GHG 削減を図る）、エネルギー課税（化石燃料等に課税して、化石燃料の相対価格を上げ GHG の削減を図る）、固定価格買取制度（再生可能エネルギーを一定の価格・条件で一定期間買い取らせる）等があります。

2021 年時で世界で明示的 CP を導入している国

は64国で、内訳は炭素税が35国、排出量取引制度が29国です。その中でヨーロッパ諸国が進んでいます。

日本では、炭素税が2012年に地球温暖化対策税（温対税）として導入されています。化石燃料（原油、石炭、天然ガス）購入時に、GHG換算で1トン当たり289円が課税される仕組みですが、世界の現状は年々高額になり、1トン当たり60ユーロ（約8600円）に達しており（最高はスウェーデンで、1トン当たり137ドル、2021年）、2030年代をめどに新たに炭素税と同等の賦課金の形で実施を検討することが最近表明されました。

ただし日本で行われている暗示的CPに分類されているエネルギー諸税（ガソリン税・石油石炭税・航空機燃料税等）を「隠れた炭素税」として加えると、日本の炭素税は世界で高い水準にあるとも言われています。

排出量取引に関しては、世界で初めてEUが2005年に導入しています。現在対象とされている業種は発電、石油精製、製鉄、セメント等ですが、新たに海運、道路、輸送、建設の追加が検討されています。

日本では東京都が2010年から「GHG総量削減義務と排出量取引制度」として実施しており、対象は年間のエネルギー使用量が原油換算で1500KL以上の事業所（約1200事業所）で、すべての事業所が削減義務を達成したとされています。その効果はGHG排出量が基準年度に対し26～27%の減少、取引（クレジット）の推定価格はGHG1トン当たり180円～900円です。

CPは国内にとどまらず国際的な問題を発生させます。一国のGHG価格が高くなると、GHGが安い国に生産を移転することもあり得るし、安い

国からの製品輸入も考えられます。すると逆にGHGの排出量が増加したり産業の空洞化も考えられます。そのような事態を避けるために、グローバルなカーボンプライシングともいえる「炭素国境調整メカニズム（CBAM）」なる制度が検討されています。

CBAMは、製品に含まれる炭素量に応じて、輸入品に国内製品と同じ炭素価格を適用する仕組みで、EUで2023年1月から導入されようとしています（但し、2025年12月までの3年間は移行期間として主にデータ収集と輸入申告者への告知期間）。

2021年7月、欧州委員会が温暖化ガス排出削減目標を40%から55%に引き上げたことにあわせ採択した政策「Fit for 55」の一部で、カーボン・リーケージを防止することを主な目的としています。

カーボン・リーケージとは、排出削減努力を行わない国・地域から流れ込む輸入品が、価格競争力の面で国内品（排出削減努力によるコストが乗っている）を駆逐してしまい、産業の空洞化に繋がるリスクを言います。つまり、EUに対して他国・地域の排出削減努力が不十分な場合のみ、このカーボン・リーケージが問題となるということがポイントです。

対象となる輸入品はセメント、電力、肥料、鉄鋼、アルミニウムなどです。

相対的に安価なエネルギー源である化石燃料の削減を進める過程で、エネルギーの高騰は避けられないと思われます。その経済的手法であるCPは企業に経済的負担を強いるものであり、その一部を消費者は製品やサービス価格の値上げの形で負担することになるでしょう。（次回は、17.カーボンクレジット、を予定）

鈴木 為之（山の根在住）

編集後記

「風薫る」と{風光る}・・・

「風薫る」緑の若葉香る中を吹く初夏の季語。「風光る」はまだ風が冷たい中でも、明るい光の中で風が光って舞っている様な春の季語。

同じ風でも季節によって違う表現となる。日本の季語の表現には様々の季節や生活の移ろい等を表すものが数多くある様で興味深い。最近人気の俳句バラティエ番組で出演者が言っていた事が興味を引いた。「季語に触れて行くと、色や香りに溢れる世界が広がってくる」と。やはり俳句は繊細な日本の文化の産物かと。日頃、その世界に余り関心のない私でもふと感ずるものがある。

ところで最近の異常な気象現象はこれら季語の世界、四季の移ろいを払拭してしまう現象がおきつつあるのかもしれない。例えば今年の夏が異常な猛暑や、大雨に見舞われたりする事が無い四季の移ろいを楽しめるものであって欲しいと願う。

事務局長 石井 達郎